

「運動会はドラマ」

子どもは運動会で成長する。でもそれは教師の取り組み次第。

1. 運動会は行事なのか？ 学習なのか？

- ・単なる行事ととらえているから、平気で春開催に移行する学校が増えるのだ。
全国的にみると、ほぼ半分ぐらいの学校が、運動会を春に開催するようになってきた。
その理由は
・行事の多い秋を避け、春に分散してバランスを取る
・9月は残暑厳しく熱中症の危険がある
・2学期制で、9月は成績の時期にあたり忙しい 等
- ・運動会の練習で子どもが落ち着いて勉強できないからサッサとすませたいという教師。
- ・「運動会が嫌い」という子どもは、実は先生が作り出しているのだ。
- ・私が一番いい時期と考えているのは9月ではなく10月。練習の期間が必要である。

2. 運動会で子どもは育つ、クラスは育つ、そして教師も育つ

- ・運動会は行事であるが、大切な学習の機会。
みんなの前で、速い遅い、勝ち負けが見える。だからこそ社会性や人間性が育つ。
教室では出来ないすばらしい価値のある体験。それは春より秋の方が育つ。
- ・運動会に参加するってどういうこと？ クーベルタン「参加することに意義がある」
参加する⇒英語で take part (役割をもつ、役割をしっかりと果たす)
- ・係の仕事は、教師の手伝いではない。役割を持たせて子どもに任せる。

3. 粘り強い取り組みの過程、それが「ドラマ」の脚本になっていく

- ・何もしないと、怒ることもないから、先生も子どもも楽。まあこれでいいやで済む。
- ・でも粘り強く練習に取り組ませようとすると、文句も出るし、トラブルも起こる。
- ・練習の時に一生懸命に教えた先生は、運動会当日も一生懸命になって燃えている。
- ・教師の姿勢で、必ず運動会は変わる、運動会は生きる。

4. 「ドラマ」が生まれ「感動」に出会い、そして「成長」する

- ・「がんばる力」と「成長」は比例し、「いい加減な過ごし方」と「成長」は反比例する。
- ・暑い中ががんばったからこそ、みんなでけんかしたからこそ、放課後練習したからこそ
⇒そこに「ドラマ」が生まれ「感動」に出会えるのだ
- ・そして「ドラマ」のあとは、子どもが変わる、親も変わる。そして学級が変わるのだ。

5. 「感動」のシーンあれこれ

- ・入場行進 ・リレーの入場 ・組体操の入場 ・リズム演技（隊形・色分け・・・）
- ・組体操（倒立・ブリッジ・タワー・・・） ・綱引きの技 ・忍者修行の道
- ・係の仕事（ライン、ピストル、判定、歌、ライン、準備、司会・・・）
- ・負けていても全力疾走 ・リレーの感動 ・・・・その他いっぱい

WAKU WAKU 6

～平木小6年学年通信～

「今日、6年生すごくがんばったんだよ。堂々と自信をもって胸はってやってたよ。とってもいい顔で、最高の演技だったよ。すごいやつらだよ。感動したわ」

運動会が終わり、私が家に帰った時に出た第一声がこの言葉でした。ビールをぐっと一杯飲み干し、あとは機関銃のように今日の運動会の6年生の様子を話しました。ちょっと気持ちが高ぶりながら、平木の6年の子たちの自慢をいっぱい話しました。「あぁいい一日だったなぁ。いいものを見せてもらったなぁ」しみじみ思いながら感動してその日を終えました。

あなたたちはどうだったでしょうか？きっと手応えのあった運動会だったと思います。

堂々とした入場行進、二人の声が大空に響きわたった誓いの言葉。係の子のすばやい行動。運動会のスタートからこの調子でした。騎馬戦では、闘志満々の顔、顔、顔・・・低学年の子らも必死で応援してくれていましたね。

午前の最後は、6年生の組体操です。胸はった堂々の行進、声とともに方向が変わり、見ている人からも大きな拍手がわきました。山中先生は「とってもいい顔でカッコよかった」って・・・。組体操に入ってからふだん以上に力が出てバッチリでした。なぜ、ふだん以上に力が出るかといえば、それは一生懸命練習してきた成果なのです。最後の最後まで入場門でブリッジの練習をしていた子、本番では見事に決めましたね。倒立が1回では、出来なかった子も一発で出来ました。それを支えていた子の最高の笑顔。まさに「人」という字でした。痛くてたまらなかった土台の子のがんばりも見事でした。「今日は足、痛くなかったよ」って。気合が入ってたんですね。9つの演技、すべてバッチリでした。大きな拍手で見ている人も応援してくれました。すばらしい演技だから拍手がくる、拍手がくるからまたもっとがんばれる、の繰り返しでどんどんよくなっていきました。する人と見る人の支え合いで演技が成功したのです。退場の時は手拍子で送ってくれました。あんなのを見たのは初めてでした。田中先生は「今まで見た組体操の中で今日のは一番だったよ」と話してくださったし、山田先生は「すごいよかったよ。感動したわ」とわざわざお弁当の時間に教室まで言いに来てくださいました。

たった65人の組体操は、やはり迫力に欠けるものです。100人以上いないと見てても足りない気がするものです。先生たちもそれがすごく心配でした。5、6年合同の方がよかったかな、なんて考えたりもしました。でも本番はそんなことは、これっぽっちも感じませんでした。65人でもあんなに立派にやれることが証明されたのです。やはり人数じゃなくて、気持ちの持ち方が大事なんですね。

最後のリレー。これもさすが6年生です。バトンパスもずいぶん上達しました。毎朝練習したことが生きていましたね。リレーゾーンをいっぱい使って全速力と全速力のバトンパスはすばらしかったです。見ている方はヒヤヒヤ、ドキドキ、スゴイの連続でした。陸上大会に出た子たちが、友だちに教えてくれたおかげですね。また、去年フーフーいった子が今年はビュンビュンとばしていました。「毎朝のジョギングのおかげだよ」と小さな一言をくれました。ふだんの地道な努力がこうやって実をむすぶのです。よくがんばってたなぁ～とここでも感動しました。

閉会式のあと、みんなで後片づけをしましたが、5年生の澄田先生は「こんなにあっという間に片付けてしまうなんてとってもびっくりしたよ。前の学校はこんなじゃなかったよ。平木の子どもってすごいんだね」とおっしゃっていました。

あぁいい運動会だった。心の1ページにしっかりと書き込まれました。卒業まであと半年です。